

保土ヶ谷区 地域力通信 第4号

編集／保土ヶ谷区役所総務部地域振興課地域力推進担当 〒240-0001保土ヶ谷区川辺町2-9 TEL 045-334-6380 FAX 045-332-7409
発行／平成28年11月(平成28年度 第2号)

特集 平成28年度 地域協働の輪紹介

保土ヶ谷区の地域協働の輪を紹介します

保土ヶ谷区内では、自治会町内会をはじめとする様々な地域団体の協働による地域活動が行われています。

『保土ヶ谷区地域力通信』第4号では、地域活動の魅力向上や、新たな活動に取り組むきっかけづくりといった「地域力」の向上のための参考事例として、周辺自治会や水辺愛護会と協働して取り組んでいる「今井川清掃（保土ヶ谷南部地区・保土ヶ谷中地区）」、人と人が個人と組織が、活動と活動がつながりあう取組の「ふじっ子ホットプラス（新桜ヶ丘地区）」を取り上げます。

今井川清掃活動について

保土ヶ谷町は、平成17年から水防訓練の一環として今井川の清掃活動を行い、現在は近隣の自治会等の協力を得て、年2回の河川清掃が定着しています。その経緯等は次の通りです。

1. 今井川河川清掃活動のきっかけ



平成16年10月、台風22号の影響で集中豪雨に見舞われ、今井川が氾濫国道1号線岩崎ガード前から、保土ヶ谷駅周辺まで、道路冠水、床上浸水約40軒の被害が発生しました。道路冠水は保土ヶ谷橋が一時水没したほどの高さで、床上浸水は畳がめくり上がり、冷蔵庫が倒れ浮かび上がる状態でした。当時の降雨量は1時間60～70ミリといわれています。この水害に対して保土ヶ谷町は、青年部が中心となり、翌11日早朝から、各家屋の水に濡れた家具や畳などの撤去、道路清掃作業等を行い、又、女性も自主的に被災者等に昼食を用意するなど支援活動を行いました。

今回の水害は、JR岩間踏切周辺の河川改修による杭に流木等がかかったことが原因と疑い、被災者が自治会のバックアップを得て「今井川水害対策委員会」を結成し事態



発生の究明、河川改修工事の状況、被害回復、事後対策等を行政当局に求める活動を始めました。更に、自治会では行政当局に求めるだけでなく、流域住民として、自分たちが川を知り、川を清掃することによって洪水を防ごうと考え、男子防災部、女子防災部を結成、清掃活動等を始めたのです。

2. 他団体との連携のきっかけ及び役割分担

保土ヶ谷町で清掃活動を行っていることを知った同じく洪水被害を受けた瀬戸ヶ谷町、岩井町両自治会の方々が賛同し、又、グランドメゾン自治会と松並木水辺愛護会も河川清掃に参加されるようになりました。

現在は、保土ヶ谷区役所の皆様の応援を得て毎回40～50名で年2回実施しています。活動分担は活動本部のテント張り及び炊き出しを保土ヶ谷町女性部、瀬戸ヶ谷橋～八幡橋までを保土ヶ谷町、グランドメゾン自治会及び水辺愛護会、八幡橋～保土ヶ谷橋手前まで瀬戸ヶ谷町自治会、保土ヶ谷橋周辺を岩井町自治会、引き揚げた漂流物、ごみなどの撤去搬送を保土ヶ谷町が担当しています。



3. 活動に当たってよかったこと、苦労したこと

(1) よかったこと

- 河川清掃を始めて河川のごみが減少、小魚が多く生息するようになり、水がきれいになったと感謝されたとき。
- 各自治会との連携がスムーズになり、流域住民との絆が深まったこと。

(2) 苦労したこと

○河川清掃に必要なものは経験がなく、実施して初めて不足がわかる状態でした。

(3) 解決方法など

○試行錯誤しながら、徐々に必要物品を揃えています。

4. 今後の活動方針等

現在川には、小魚や小生物、カワニナも多く生息していることから、昔の今井川のように、子供が水辺で遊び、夏には蛍の飛びかう「ふるさとの川」、水害のない川にしていきたい。そのために、中高生等を始め若い人の参加を呼びかけ、大勢の人々の協力を得て活動していきたい

ふじっ子ホットプラスについて

1. ふじっ子ホットプラスの発足

新桜ヶ丘地域は子どもを見守る大人たちの眼が大変やさしく、地域発信の朝ボランティア、花ボランティア、昔あそびのつどい、子育てサロンおもちゃばこ、藤塚太鼓 読み聞かせ、新桜ヶ丘音頭の普及等々多くの事業が行われ青少年の健全育成に寄与しています。さらに25年度には藤塚小学校・地域コーディネーター・地域ボランティアで構成された組織「ふじっ子ホットプラス」が発足し学校と地域を繋ぐ学習支援の活動が加わりました。



2. 「稲ボラ」の誕生

藤塚小学校の稲作の授業は5年生の社会科で行う学習で従来は個々がバケツで稲を植えるバケツ稲作りでした。26年度に花壇を利用して本格的な田んぼで稲作りをしたとの相談が学校から「ふじっ子ホットプラス」にありました。さっそく地域からの協力者を探したところ3名の協力を得ることができました。花壇の土の整備、田植え、稲刈り、脱穀について先生と打合せをし、児童が学習すること、地域が協力できることを整理していきました。一番の難関であった夏休み中の田んぼの世話も地域が引き受けてくれることになりました。また先生からは米粉パンも作りたいとの要望が出され、地域からは案山子作りや残った藁で縄をないリースを作ることが提案され、結果お米作りを通して一年間児童と関わることになりました。専門的なことは農協にも協力を求めました。何度となく相談



を持ちかける過程で良いコミュニケーションがはかれ、脱穀機をお借りすることもできました。

一喜一憂しながら育てた稲が実り稲を刈る日は児童と地域

と考えています。

(寄稿：保土ヶ谷町自治会 会長 内藤 好夫 様)

参加者の声

- この清掃を通して、自治会内の方、近隣の違う自治会の方とも交流できていて今後とも続けていきたいと思えます。
- 川にはセキレイなどの鳥、亀・蟹・鮎など多数の水生生物もいる。綺麗な川を維持していくことで多様な生物と共生できる環境にしていきたいです。
- 清掃後の炊き出しは自治会女性部の皆さんが担当してくれている。清掃終わりにおいしいおにぎり等を食べながら地域の皆さんと語り合うことで連帯感が高まっています。

が一体となって喜びを感じる日になりました。沢山のお米が収穫でき、試食会でのご飯も児童と一緒にいただきました。

土の整備や案山子作り、縄をなえの実施は3人では無理があります。その

都度地域に声をかけたり、冒頭記述の花ボランティアにも協力をお願いしました。一年を通しお米作りの活動に関わる人は10名を超えるようになりました。



次年度も稲作は実施するという事で、協力者も引き続き協力することになりました。当初は知り合いでなかった人もいましたが、これをきっかけに一つのグループとしてまとめ稲作ボランティア→「稲ボラ」が誕生しました。

花壇田んぼのお米作りは3年目になり今年はおもち米づくりに挑戦しています。10月に稲刈りが終了し、12月の縄なえや餅つきが楽しみです。

3. 今後の活動方針等

ふじっ子ホットプラスではこの例の他にも、物づくり・手話・切り絵・陶芸・茶道等の講師や近隣の自然の研究者・町の歴史の語りべ等の紹介。火おこし体験の補佐、福祉教育での地域ケアプラザとの連携、児童の学習成果の発表の場の提供など学校の多様な取り組みに地域や他団体の力を繋いでいます。地域の中の学校を見守り、協力したそれをきっかけとして、人と人が個人と組織が、活動と活動がつながりあうホットで力強い地域づくりの一助になればと活動を続けています。

(寄稿：藤塚小学校・地域コーディネーター 中村 好美 様)

参加者の声

- 将来、農業をやることはないと思いますが、貴重な経験をさせていただいて、地域の皆様に感謝しています。
- こんなに稲が切りづらいとは知らなかった。授業でこういう機会がなかったら中々できない体験だった。
- 暑かったけど、地域の人に教えてもらいながら稲刈りできて楽しかったです。ありがとうございました。